

VIOLA



REFERENCE PREAMPLIFIER

SPIRITO II

リファレンスプリアンプ

¥5,800,000(税別)



SPIRITO(スピリト)は、オーディオの将来を厳しく見極めることから生まれた、ヴィオラが誇るフラッグシッププリアンプとしてハイエンドオーディオ界に君臨してきました。チェロ時代の傑作プリアンプ AUDIO SUITE から受け継いだオープンアーキテクチャー設計を採用し、各回路を完全にモジュール化。必要なモジュールを追加した時や、将来のテクノロジーの発展に呼応して開発される多彩なモジュールを追加した時にも、確実なオペレーションが可能になるようにフロントパネルにタッチスクリーンを採用するなど、AUDIO SUITE 以降のテクノロジーの発展やノウハウの蓄積に合わせて、随所に新たなアイデアを盛り込んだ先進先鋭のプリアンプです。SPIRITO II では、使い勝手の良さや音質面も含め、SPIRITO の完成度をさらに可能な限り高めています。チェロから続く巨人の製品哲学が、SPIRITO II には根付いています。

【主な変更点】

SPIRITO II のために、新たにソフトウェアを開発。操作性、最適な文字の大きさと配列など、使い勝手の良さを追求しました。

SPIRITO II では、ディスプレイにLEDバックライト方式を採用。ノイズの発生を抑えるとともに、ちらつきがなく、視認性が向上しています。

SPIRITO II 本体と電源部、合計8個の脚をジュラルミン製のインシュレーターに変更。オーディオ機器のウィークポイントである不要な振動をシャットアウトすることで、確実に音質を向上させています。また、顔つきが一段と引き締まり、精悍な印象を与えています。

SPIRITO II は高い拡張性を特徴としますが、設計で最も力を注いだのは、再生音の音楽性を損なう増幅過程でのさまざまな不純物を、わずかも発生させない回路の実現です。厳選された素子による各回路を小型モジュール化して封入することで、信号経路を短くするとともに、回路内温度の均一化を図っています。結果、安定感に優れた、鮮度のよい瑞々しいサウンドを実現しています。

SPIRITO II では、SPIRITO の入力モジュールと出力モジュールに装備されていた Fischer 端子を削除。シンプルな回路設計に貢献しています。

【従来からの特徴】

ベーシックタイプは、3系統の入力を持つ入力モジュール、および3系統の出力を持つ出力モジュールの二つを標準装備したメイン・フレームシャーシと、独立筐体の大型電源部から成ります。電源部を別筐体とすることで電源部からのノイズをオーディオ部から完全に隔離しています。

ベーシックタイプの状態で残り6モジュール分のスペースが確保されており、そこに必要なモジュールをインストールすることで拡張性を発揮し、真の多機能性を実現することができます。

現在開発中のモジュールは、標準装備の入出力モジュールのほか、フォノン・ブットモジュールおよびD/A(デジタルインプット)モジュールなどです。本機はオープンエンドのシステムで、将来様々なモジュールが開発される可能性があります。その場合にもアップグレード可能なソフトウェアでコントロールされるタッチスクリーン式オペレーションシステムを採用しておりますので、将来にわたっての対応が可能です。

入力インピーダンスはヴィオラ伝統の1M という高い値に設定。接続機器の負荷を低減することでその能力をフルに引き出しています。

オーディオ回路はモジュールまでL/R完全独立の、フル・モノラルコンストラクションを採用。しかも入力から出力まで、驚沢な全段ディファレンシャル(差動)バランス構成です。抜群のS/Nとチャンネルセパレーションを誇ります。

本機にはオーディオ回路のアナログ部とコントロール系のデジタル部がありますが、この二つのアース経路およびシグナル経路は厳密に分離し、相互干渉を徹底的に排除しました。

独立筐体の大型電源部は、チョークインプットトランスを搭載したインダクティブインプット方式です。AC電源の電圧変動に強く、ACラインからのノイズに対する高い防御能力を備えます。また電磁波障害ノイズの影響が少なく、電源部に生じる電氣的ストレスを大幅に低減することから、電源トランスの能力を最大限発揮させることができます。

V20 Reference Input Module.

入力バランス	2系統(XLR×2) シングルエンド1系統(RCA×1)
入力インピーダンス	1M
周波数特性	20Hz-20kHz: +/-0.2dB
S/N	-85dB
全高調波歪率	<0.002% @20kHz
混変調歪率	<0.003% @60Hz-7kHz 4:1

V30 Reference Output Module.

出力	バランス2系統(XLR×2) シングルエンド1系統(RCA Tape Out×1)
出力インピーダンス	100 Main 620 Tape Out
ゲイン	+/-16dB
周波数特性	20-20kHz: +/-0.2dB
S/N	-85dB
全高調波歪率	<0.002% @20kHz
混変調歪率	<0.003% @60Hz-7kHz 4:1

最大10枚までのモジュールカードを挿入可能

リモートコントロール付属

最大外形寸法	本体部	447(W)×215(H)×525(D)mm
	電源部	447(W)×110(H)×510(D)mm
重量	本体部	21.5kg
	電源部	23.5kg



SPIRITO II リアパネル(V20モジュール×1、V30モジュール×1搭載時)

REFERENCE POWER AMPLIFIER

BRAVO II

リファレンスパワーアンプ

¥5,400,000(税別)

BRAVO(ブラボー)は、オーディオ部と電源部を完全に独立させた超弩級のリファレンスパワーアンプとしてハイエンドオーディオ界を牽引してきました。ドライブ力はもちろん、大型アンプでありながらスピードと瞬発力さらには繊細な音楽表現力を併せ持っていることが大きな特徴で、今までにない大型アンプとして親しまれてきました。時代は高効率やコンパクト化、さらにはデジタル化の波が押し寄せていますが、ヴィオラの結論はその正反対とも言えるステレオ2シャーシ構成の大型パワーアンプ。なぜならそれが、音楽のありのままの感動を伝えるための一つしかない手段だからです。BRAVO IIでは、BRAVOの優れた特徴はそのままに、さらに細部を見直し、徹底的に完成度を追求しました。それは、ただ単に音楽の感動を伝えるためのスピーカー駆動に徹したパワーアンプです。

【主な変更点】

BRAVO IIでは、その最大の特徴ともいえる超大型2kVAの大容量トroidalトランスと、ヴィオラ製品が一貫して採用し、電源部の安定性と信頼性を飛躍的に向上させている大型のチョークインプットトランスをヴィオラ特製シールドケースに収納。大型トランスにつきものの「トランス唸り」を大幅に低減させています。別筐体の電源部とあわせて、オーディオ回路部に対する電磁波障害ノイズの影響を完璧にシャットアウト。余裕ある大型電源部を構築しています。

1筐体6個、合計12個のゴム製の脚を全てジュラルミン製のインシュレーターに変更。よりダンピングの効いた、筋肉質で締まった低域を約束いたします。またフロントマスクの精悍な顔立ちにも一役買っています。

内部配線には航空機グレードのワイヤーハーネスを採用。整然とした回路内部は回路全体の性能を可能な限り引き出します。

【従来からの特徴】

本機 BRAVO II はモノラルアンプ2台に見えますが、オーディオ回路と電源部をそれぞれ別筐体にした2シャーシ構成のステレオパワーアンプです。電源部とオーディオ回路を完全セパレートし、電源部に起因するノイズ成分をオーディオ回路に寄せつけないことが2シャーシ構成の目的です。

オーディオ回路は全段ディファレンシャル(差動)バランス構成で、デュアルFETをカスコード接続した電圧増幅段と、次段のローレベル・バッファアンプ、そしてチャンネルあたり20組の、コンプリメンタリーペアを組むバイポーラトランジスタからなる出力段で構成されます。

出力段は、多数のデバイスの使用でS/Nの向上や歪み低減効果を得るとともに、静粛なファンで強制空冷することによりコンパクトなレイアウトを実現。これによりパワーロスや、インダクタンス、キャパシタンス、および電磁カップリング等で引き起こされる歪みを最小限に抑えています。また SPIRITO II と同様に、入力インピーダンスを1M の高い値に設定し、接続機器の負荷を低減することでその能力をフルに引き出しています。

さらに電源部では、贅沢なチョークインプットトランス搭載のインダクトインプット方式を採用。この方式はAC電源のパワーを最大限に利用できることや、ACラインからのノイズや歪み成分に対する高い防御能力を備えるのが特徴です。しかもチョークトランスにはチャージ電流の安定性を求めて、二つの独立捲線を持たせる入念さです。

インダクトインプット方式電源部の採用で、通常電源では避けられない高いピーク充電流から開放。この結果オーディオ回路近くに電源コンデンサの設置が可能となり、本機では80,000 μ Fの平滑コンデンサ4基をオーディオ回路に隣接して配し、高い応答性を得ています。



本機は、通常の「BRAVO II 2BOX SET」による出力350W + 350W(8)でのステレオ使用のほか、もう1セット追加した「BRAVO II 4BOX SET」でのインターナルブリッジおよびインターナルパラレルの、二つのモノラルモードで動作させることも可能です。出力1,200Wを生み出すインターナルブリッジは、より大きな電圧が要求されるハイインピーダンス・スピーカー(4 以上)に、出力350Wのパラレルは、より電流が必要なローインピーダンス・スピーカー(4 以下)のドライブに適します。

さらに、オプションのブリッジキットで結線した、片チャンネルに本機2セットの「BRAVO II 8BOX SET」では、オーソドックスなブリッジ接続による1,200W以上の出力が得られ、大出力を要する低効率ハイインピーダンス・スピーカーのドライブに最適です。

入力	1系統(XLR x 1)
入力インピーダンス	1M
ゲイン	23dB, 26dB, 29dB(切替式)
周波数特性	10Hz-20kHz: +/-0.15dB, 100kHz: < -3dB @1W into 8
出力帯域幅	5Hz-100kHz(-3dB points)
S/N	-105dB @1kHz/350W
全高調波歪率	<0.1% @20kHz/350W
混変調歪率	<0.075% @1W-300W into 8
出力	350W(20Hz-20kHz, 8) 1200W(20Hz-20kHz, 8)/ブリッジモード時
クラス	AB2
最大外形寸法	本体部 447(W) x 250(H) x 750(D)mm 電源部 447(W) x 250(H) x 750(D)mm
重量	本体部 45.0kg 電源部 82.0kg

MONO PREAMPLIFIER

SOLO

モノラルプリアンプ

¥4,200,000 /pair(税別)



電源は別筐体となります。

トム・コランジェロの遺作となった、超弩級の純Aクラスモノラルパワーアンプ LEGACY。そのA級ならではの芳醇で滑らかなサウンドと、桁違いのドライブ力を兼ね備えたパワーアンプの能力を究極レベルにまで引き出すために、ポール・ジェイソンが単独で開発を行った渾身の力作が SOLO です。SOLO と LEGACY を組み合わせて使用することで、トムとポールの魂と技術が渾然となり、まさにヴィオラの目指す理想のアンプとなるのです。

ポールが設計の際に念頭に置いたのは、再生音の音楽性を損なう増幅過程での様々な不純物を、わずかも発生させない回路の実現でした。このために厳選された素子による各回路は、信号経路の短縮化や熱的安定性の向上を目指してモジュール化。SOLO のために新開発したOTA-6、OTA-8モジュールが驚異的な分解能と安定感をもたらしています。さらに、入力から出力まで贅沢な全段ディファレンシャルバランス構成、電源部まで左右完全独立としたモノラルコンストラクションを採用することで、この上なくピュアな音楽表現を実現しています。

【主な特徴】

SOLO は、電源部も含めて左右チャンネルを独立させた、完全モノラルコンストラクションを採用。左右チャンネルの干渉を事実上完全に廃しています。さらにオーディオ回路は、入力から出力まで全段ディファレンシャルバランス回路を採用することで、信号の純度を全く損なうことなく、空間再現、音像再現において並ぶもののない完璧なプリアンプを実現しています。

SOLO は、ヴィオラが新たに開発したOTA-6、OTA-8モジュールを使用した完全モジュール構成を採用。ショートサーキット化による伝送ロスの少ない非常に純度の高い音を実現するとともに、回路実装密度を高めてモジュール内の温度を瞬時に均一とすることで、安定した性能を発揮することを可能にしています。またモジュール構成とすることにより、メンテナンス性の向上と将来のモジュールアップグレードにも対応しています。

SOLO の電源部は、ヴィオラの他の製品と同様にチョークインプットトランスを搭載したインダクトインプット方式を採用。AC電源のパワーを最大限に利用し、ACラインからのノイズや歪み成分に対する高い防御能力を備えています。また強力な電源部を本体と別筐体とすることで、トランス部からのEMI(電磁波障害)が回路部に混入するのを完全にシャットアウトし、SOLO の非凡な能力を最大限まで引き出します。

SOLO は、高性能とフィーリングを徹底して追及した、超高精度抵抗切換式ボリュームを採用しています。ヴィオラの特徴ともいえるボリュームのフィーリングは健在で、SOLO のためにデザインされた斬新なノブとともにフロントパネルのアクセントになっています。

またボリュームコントロール用に、SOLO のそれぞれのユニットは、専用のリンクケーブルにより接続されます。マスター機(親)とスレーブ機(子)を設定し、ボリュームコントロール時にはマスター機のボリュームを操作することで両チャンネルのボリュームをシンクロさせて調整することができます。バランス調整の際はマスター機とスレーブ機を切り離すことにより、それぞれのチャンネルについて独立してバランス調整を行うことが可能です。SOLO は、モノラルプリアンプでありながら極めて優れた操作性を確保しています。

SOLO は、ユニットを増やすことにより、容易にマルチチャンネルプリアンプとなります(最大32台まで)。またマルチチャンネルシステムの場合は、複数のチャンネルをグループとして登録することが可能。グループごとのゲイン調整を行うことができます。

例)5.1chセッティングの場合:

グループ1: Left, Right チャンネル

グループ2: Center チャンネル

グループ3: Left Surround, Right Surround チャンネル

入力	6系統(XLR×3, RCA×3)	
出力	1系統(XLR, RCA切り替え式)	
テープアウト端子	RCA×1	
入力インピーダンス	1M	
周波数特性	20Hz-20kHz: +/-0.2dB	
S/N	-85dB	
全高調波歪率	<0.002% @20kHz	
混変調歪率	<0.003% @60Hz-7kHz 4:1	
最大外形寸法	本体部	447(W)×55(H)×483(D)mm
	電源部	250(W)×180(H)×400(D)mm
重量	本体部	7.0kg/台
	電源部	7.0kg/台
リモートコントロール「BATON(パトン)」付属		



SOLO リアパネル

CLASS A MONO POWER AMPLIFIER

LEGACY

クラスAモノラルパワーアンプ

¥6,800,000 /pair(税別)



数々の名機をこの世に送り出し、ハイエンドオーディオ界のトップエンジニアとして、また、ヴィオラのチーフエンジニアとして君臨してきた巨星、トム・コランジェロ。惜しまれながらも2007年に突然この世を去ったアメリカハイエンドオーディオ界の雄が最後に書き残していたのが純Aクラスの超弩級モノラルパワーアンプの回路図だったのです。この回路図をベースに、マークレビンソン時代から約27年間、トム・コランジェロと共に歩んできた設計者、ポール・ジェイソンが製品化して誕生したのが本機「LEGACY(レガシー)」です。

LEGACYは、マークレビンソン時代にトム・コランジェロが設計に携わった純Aクラスパワーアンプの名機「ML-2」を基本とし、彼が長年に渡って暖めてきたアイデアを具現化したものです。「ML-2」からすでに30年。当時出来なかった夢をこの純Aクラスアンプにのせて、トム・コランジェロに敬意を表してLEGACY(遺産)という名を製品名に掲げ、ヴィオラが自信を持って世に送り出します。

【主な特徴】

繊細で歪みの少ないハイクオリティサウンドを実現するため、純Aクラス回路を採用。

入力から出力まで完全バランス回路を採用。信号の歪み成分を最小限に抑えています。

Aクラスアンプの唯一の欠点でもある低出力を克服するために、出力段の回路はブリッジ接続設計とし、純Aクラスアンプでありながら100Wの出力をたたき出します。

さらにアウトプットトランスを採用することで、低インピーダンス時にも安定した出力を保証します。

電源部には、贅沢なチョークインプットトランス搭載のインダクトインプット方式を採用。AC電源のパワーを最大限に利用し、ACラインからのノイズや歪み成分に対する高い防御能力を備えるこの方式を採用することにより、電源部の安定性と信頼性を飛躍的に向上させています。

本機は、大型電源部とオーディオ回路部を同一筐体に収めていますが、インダクトインプット方式の電源部からの電源供給は、一般的な電源では避けることのできないピーク充電流がないため、オーディオ回路と電源コンデンサーが近接したレイアウトになっても、音質劣化の心配がありません。

全てのヴィオラ製品がそうであるように、入力インピーダンスを1MΩの高い値に設定し、接続機器の負荷を低減することで、その能力をフルに引き出します。

LEGACYの生命線でもある大容量トイダルトランスと大型のチョークインプットトランス、さらにアウトプットトランスはそれぞれヴィオラ特製シールドケースに収納。大型トランスにつきものの「トランス唸り」を大幅に低減させています。

ジュラルミン製のインシュレーターフットを装備。不要な振動を素早く逃がすことにより、ダンピングの効いた筋肉質で締まった低域を約束いたします。また、フロントマスクの精悍な顔立ちにも一役買っています。

入力	バランス2系統(XLR×2)
入力インピーダンス	1M
ゲイン	26dB
周波数特性	10Hz-20kHz: +/-0.25dB, 100kHz<: -3dB, @1W
出力帯域幅	5Hz-100kHz(-3dB points)
S/N	-110dB @1kHz/100W
全高調波歪率	<0.1% @20kHz/100W
混変調歪率	<0.075% @1W-300W
出力	100W(20Hz-20kHz/2, 4, 8, 16)
消費電力	450W
クラス	A
最大外形寸法	450(W)×310(H)×680(D)mm/台
重量	75.0kg/台

STEREO PREAMPLIFIER

CADENZA

ステレオプリアンプ

¥1,950,000(税別)



電源は別筐体となります。

チェロの傑作プリアンプ ENCORE 1M。ハイ入力インピーダンス思想に基づく入力インピーダンス1Mの数値を音質追求の象徴として掲げるとともに、薄型シャーシのシンプルな美しさやフィーリングのよい高精度ボリュームなどを武器とし、オーディオファイルを魅了したモデルです。このモデルを基にしつつさらに完成度を高めた新時代のENCORE 1Mともいえるのが、本機 CADENZA です。

【主な特徴】

電源ポリシー

ヴィオラの設計哲学のひとつが、電源の絶対的安定性です。揺るぎない電源を得ることにより、絶対的安定感のある音質を実現するということが、本機をはじめとしてすべてのヴィオラ製品のベースとなっています。

チョークインプットランス方式を採用した電源部

CADENZAの電源部は、チョークインプットランスを使用したインダクトインプット方式を採用しているのが大きな特徴ですが、これはほとんどの機器が採用しているコンデンサーインプット方式の整流回路に比べてパワーファクターが高く、AC電源のパワーを最大限利用できる点、ボルテージレギュレーションに優れている点、ACパワーラインからのノイズと歪みに高い防御性を持つ点ということが理由です。

ダブル定電圧回路

CADENZAでは、電源部を別筐体化。トランス部からのEMI(電磁波障害)が回路部に混入するのを完全にシャットアウトすることに加えて、CADENZAでは、トップエンドプリアンプ SPIRITOと同じ定電圧回路を、電源部と回路部にそれぞれ搭載。電源電圧の絶対的な安定度を確実に保証できる構成となっています。

増幅回路モジュール

ヴィオラのもうひとつの設計哲学が、増幅回路の絶対的動作安定性です。その実現のためのヴィオラの回答が、増幅回路のモジュール化です。モジュール化の一番の意味は、回路実装密度を高めて回路内の温度を瞬時に均一化することにあります。ほんのわずかな温度の揺らぎにより半導体の動作点が揺らいでしまい、回路動作が不安定になることが音質に与える影響を VIOLAは重視しました。CADENZAでは、可能な限り小型化したモジュールに回路を高密度実装し、そのモジュール各々にヒートシンクを取り付けて回路温度を瞬時に均一化。勿論モジュール化は、信号経路の短縮化にも貢献しており、瑞々しいダイナミックな再生音を生み出す原動力となっています。

また CADENZA では、各ステージごとに異なるタイプの増幅モジュールを新開発。入力インピーダンスを1Mにセットすることで、ソース機器のインピーダンスに振られること無く安定した動作が保証されます。

ボリューム

ヴィオラの前身であるチェロ製品において、ボリュームノブの質感はまさに製品のチャームポイントでありましたが、CADENZAではそれをさらに追求しました。58ステップ 金接点、超広帯域チップ固定抵抗切換型を採用した CADENZA のボリュームは、まさに固定抵抗切換型アナログボリュームの最高峰といっても過言ではないでしょう。

その他の特徴

SSPモード(サラウンドプロセッサ接続用)2系統設定可能。

オーディオ環境とシアター環境を両立することが可能です。シアター用サラウンドプロセッサの出力を、SSPモードチャンネルに接続することにより、CADENZAのボリューム回路をパスしてユニティゲインで出力させることが可能です。

入力	バランス2系統(Fischer×1、XLR×1) シングルエンド4系統(RCA×4)
出力	バランス3系統(Fischer×1、XLR×2) シングルエンド1系統(RCA×1)
入力インピーダンス	1M
出力インピーダンス	100
周波数特性	+/-0.1dB 20-20kHz
S/N	-94dBv 10Hz-80kHz
全高調波歪率	<0.005% @20kHz
混変調歪率	<0.005% @60Hz-7kHz 4:1
最大外形寸法	本体部 445(W)×110(H)×430(D)mm 電源部 225(W)×110(H)×400(D)mm
重量	本体部 9.0kg 電源部 7.6kg



CADENZA リアパネル

STEREO POWER AMPLIFIER

SYMPHONY

ステレオパワーアンプ

¥2,150,000(税別)

SYMPHONY は、上級機 BRAVO で培った非常に精巧で完成度の高い技術を随所に盛り込み、ドライブ力、スピード、瞬発力、そして繊細な音楽表現能力を1シャーシに収めることに成功した、天才ム・コロランジェロの快心の意欲作です。

【主な特徴】

電源部の特徴

SYMPHONY は、徹底的に電源の安定性を追及し、ノイズと歪みに対して非常に高いアドバンテージを持つチョークインプットランスを使用したインダクトインプット方式を採用しています。SYMPHONY の繊細な音楽表現力と官能的な音、そしてゆとりと絶対的安定感のある音質は、電源の安定性に秘密があるのです。定格出力と実際の出力の差は、チェロ時代のパワーアンプよりも余剰な電圧降下が少ないため、出力段のパワーの浪費も最小限に抑えられていることを示します。また、この設計を取り入れたことにより、筐体を小型化することに成功しました。

オーディオ回路部の特徴

SYMPHONY のオーディオ回路部は、インダクトインプット方式を採用した電源部から電源供給を受けているため、コンベンショナルなコンデンサーインプット方式を採用した電源につきもののピーク充電電流がありません。また、入力段はデュアルモノFET回路を用いており、これが広大なダイナミックレンジと負荷に非常に強い性質に大きく貢献しています。



また、その他のヴィオラ製品と同様、入力インピーダンスを1M にセットすることで、ソース機器のインピーダンスに振られることなく安定した動作を保証いたします。出力段の高いバイアス電流は電源部への安定化に役立っており、動作時の非常に安定した電源供給にも貢献。SYMPHONY のダイナミックな音質の隠し味となっています。

その他の特徴

SYMPHONY は通常のステレオモードに加え、もう1セット増設することによりモノラルアンプとして使用することができます。出力は4倍になり、低能率・ハイインピーダンスのスピーカーの駆動に適しています(要外部接続ブリッジキット)。

入力	バランス1系統 (Fischer or XLR x 1)
入力インピーダンス	1M
ゲイン	26dB
周波数特性	+/-0.2dB 20Hz-20kHz
出力	200W(20Hz-20kHz, 8) 800W(20Hz-20kHz, 8) / ブリッジ接続時
クラス	AB2
最大外形寸法	445(W) x 215(H) x 475(D)mm
重量	53kg

MONO POWER AMPLIFIER

FORTE

モノラルパワーアンプ

¥1,530,000 /pair(税別)

FORTE は、上級機 BRAVO と SYMPHONY で培った技術をそのまま非常にコンパクトなボディに凝縮した、ハイクオリティなモノラルパワーアンプです。コンパクトとは言っても、その大きさに騙されてはいけません。微小レベルの音楽信号を再現する能力とドライブ能力を併せ持ち、モノラルパワーアンプならではのリアルな定位感と正確に制御された低域が生み出すステレオイメージは、音楽の神髄である魂を描き出します。

【主な特徴】

オーディオ回路部の特徴

FORTE の信号経路は、外部からのノイズの影響を最小限にするため電圧増幅部を完全バランス回路構成にしています。また、アンプの高い出力電流につきものの強力な磁場の影響を最小限に抑えるため、レイアウトにも細心の注意を払っています。さらに、FORTE のコンパクトな筐体が最短で理想的な信号経路に貢献しています。

FORTE は、使用時に発生するオーバーロードに対してソフトクリッピング回路を搭載しており、スピーカーを守るとともに、通常のアンプが引き起こすような倍音歪を完全に抑え込んでいます。また FORTE が動作しているときは、この回路は影響を与えません。

FORTE はネガティブフィードバックを極力抑えた設計になっており、相互変調歪を最小限に抑えることで大音量時でも小音量時でも音楽のディテールをはっきりと聴くことができます。またヴィオラの他の製品と同様に1M を踏襲することでどんな負荷に対しても安定した出力をスピーカーに供給することができます。



電源部の特徴

パワーアンプの心臓部は何といっても電源部です。FORTE はヴィオラのお家芸であるチョークインプットランスを採用。これは、一般的なコンデンサーインプット方式より電磁波障害が少ないため、電源部に生じる電氣的ストレスを大幅に低減し、AC ラインからのノイズや歪に強く、AC 電源のパワーを最大限に利用することができます。また、FORTE の電源部は、高周波ノイズの発生を完全に回避するように設計されていますが、この設計が電源部にかかる負担を少なくし、信頼性と寿命を大幅に延ばしています。

ブリッジ接続

2台の FORTE を接続してブリッジ接続とすることが可能です。出力は1台の FORTE の約4倍になります。

入力	バランス2系統 (XLR x 2) / 1系統はブリッジ接続用
入力インピーダンス	1M
ゲイン	26dB
周波数特性	+/-0.15dB 10Hz-20kHz @1W into 8
出力帯域幅	5Hz to 100kHz(-3dB points)
S/N	-105dB at 1kHz/75W
全高調波歪率	<0.1% @20kHz/75W
混変調歪率	<0.075% @1W-75W into 8
出力	75W(20Hz-20kHz, 8), 150W(20Hz-20kHz, 4)
クラス	AB2
最大外形寸法	225(W) x 110(H) x 423(D)mm
重量	15.9kg/台

ACTIVE CROSSOVER

QUARTET

4way モノラルクロスオーバー

¥4,900,000 /pair (税別)

DUET

2way ステレオクロスオーバー

¥2,450,000 (税別)



写真はQUARTETです。電源は別筐体となります。

QUARTET と DUET は、ヴィオラの持てる力を結集して完成させた、まさに妥協のないチャンネル Divider です。究極のサウンドを追求するマルチアンプ駆動方式で、必ず大きな役割を果たしてくれます。

QUARTET はモノラル構成のチャンネル Divider で、4ウェイまでのスピーカーシステムの使用に対応しています。それぞれのチャンネル周波数は4つのフィルターカード (Low Pass × 4、Band Pass Low × 8、Band Pass High × 8、High Pass × 4、合計24枚) をメインマザーボードに差し込んで使用します。

DUET は QUARTET を2ウェイのステレオ仕様にし、使いやすくなったモデルです。それぞれのチャンネル周波数は、2つのフィルターカード (Low Pass × 4、High Pass × 4、合計8枚) をメインマザーボードに差し込んで使用します。

[QUARTET / DUET共通の特徴]

チャンネル周波数はオーダー時にご指定いただき、お好みのクロスオーバー周波数を選択することができます。また、クロスオーバー周波数は2点セレクトが可能で、フィルターカード上にあるスイッチで切り替えることができます。

これらのフィルターカードは完全ディスクリートされたA級設計で、カットオフレートは1オクターブにつき12dBです。差し込んだカードの数によって、周波数のカットオフレートを12、24、36、48dBのいずれかに設定することができます。

出力レベルのコントロールには、高精度なローノイズタイプのポテンショメーターが採用されています。それぞれの周波数のコントロールに究極の精度を追求し、10回転のバーニアタイプのダイヤルを採用。ロック機能を持ち、一度設定したらレベルがずれることはありません。

A級の完全ディスクリート回路を使用した、バランス設計。メインオーディオ回路は大きなマザーボードの上に組み立てられており、シグナルスイッチリレー、パワーサプライモジュール、入出力コネクタを装備しています。これにより信号経路は最短となり、極めてピュアな信号伝送を実現しています。

増幅部はヴィオラ特別設計の OTA ゲインモジュールを採用。完全ディスクリート構成で、高精度なフィルムレジスター (誤差0.01%) を使用しています。これらはバランス設計により、非常にノイズの低い理想的なゲインステージを実現しています。また、3種類の OTA ゲインモジュールが適材適所に配置され、各部の温度の変動に影響されないように細心の注意が払われています。例えばそれぞれのモジュールにはヒートシンクが取り付けられており、回路温度を瞬時に均一化。これにより、回路の動作が飛躍的に安定し、増幅回路部の絶対的安定性に貢献しています。

モジュールはデュアルモ/ FET入力とカスコード接続されているため、ダイナミックレンジは非常に大きくなり、電源部の安定性に大きく貢献しています。また、モジュール設計とすることにより、メンテナンス性が向上しアップグレードにも容易に対応することができます。

QUARTET / DUET では、電源部を別筐体化。トランスからの EMI (電磁波障害) が回路部に混入するのを完全にシャットアウトしています。また、ヴィオラのお家芸であるチョークインプットトランスを採用。これは、一般的なコンデンサーインプット方式より電磁波障害が少ないため、電源部に生じる電気的ストレスを大幅に低減します。さらに、AC ラインからのノイズや歪に強く、AC 電源のパワーを最大限に利用することができます。

電源部は、高周波ノイズの発生を完全に回避するように設計されています。この設計が結果的に電源部にかかる負担を少なくし、信頼性と寿命を大幅に延ばしています。

全てのヴィオラ製品がそうであるように、QUARTET / DUET も入力インピーダンスは1MΩを採用しています。接続機器の出力インピーダンスとマッチングが取れていない場合に干渉を排除することで、安定した入力を確保することができます。

入力端子はスイッチ切替え可能な、バランス入力 (XLR端子) と、アンバランス入力 (RCA端子) を備えており (DUETはバランス入力のみ)、どちらも入力インピーダンスは、1MΩにセットされています。

それぞれのチャンネル周波数の出力端子は、バランス出力 (XLR端子) と、アンバランス出力 (RCA端子) を備えています。

入力(QUARTET)	バランス1系統 (XLR × 1) シングルエンド1系統 (RCA × 1) / 切り替え式
入力(DUET)	バランス1系統 (XLR × 1)

[QUARTET / DUET共通]

入力インピーダンス	1M
出力 (各帯域)	バランス1系統 (XLR × 1)、シングルエンド1系統 (RCA × 1)
S/N	-95dBv 10Hz-22kHz
全高調波歪率	<0.01% @ 20kHz
混変調歪率	<0.005% @ 60Hz-7kHz 4:1
スロープ特性	-12dB/oct、-24dB/oct、-36dB/oct、-48dB/oct オーダー時に選択
カットオフ周波数	オーダー時に指定
最大外形寸法	本体部 447(W) × 45(H) × 406(D)mm / 台 電源部 223(W) × 91(H) × 406(D)mm / 台
重量	本体部 8.5kg / 台 電源部 9.1kg / 台